

2013年7月
1057号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

レソト王国首相歓迎会

第五回アフリカ会議の過密なスケジュールの中、レソト王国タバネ首相閣下御一行様を歓迎出来ましたこと大変光栄で御座います。式典のみならず翌早朝より被災地福島県訪問も予定されておりました為、レソト王国大使館、レソト王国本国、外務省、宮内庁、福島県庁、相馬市等々合計で12の国地域団体の中での日程管理には、大概会長・小山理事長をはじめ先輩方が奔走し、度重なるスケジュールの変更が生じて、「レソト王国首相閣下御一行を心から歓迎したい」という真心が強い芯となり、各方面のリーダー等多くの皆様をお招きすることが出来ました。日本の「和」の心を持って、目黒雅叙園にて無事首相閣下を最高の形でお迎えすることが出来ましたこと、心より嬉しく思い胸がいっぱいになりました。

本式典を開催するにあたり、救護：高橋、会場内進行：鬼童、石関外6名、着付担当：塩見外4名、警備担当：加茂外10名、通訳：三坂外15名等々、沢山のメンバーが陰で黙々と自らの使命を果たすことで、今日の成功が結ばれました。特に目黒雅叙園の献身的御協力があったのでした。

レソト王国のタバネ首相は過密なスケジュールの中お越し頂いたにも関わらず、終始優しい眼差しで、時にはチャーミングな言動で会場の皆様に温かい笑いを湧かせて下さいました。タバネ首相のご挨拶では、スピーチ原稿を変更し、私達一冊の会の活動に心から理解を示して下さい、震災直後から2年間以上一冊の会と日本レソト友好協会と一緒に続けて参りました被災地支援活動には感謝の意も表して下さいましたことは、支援物資を必死に集め続けて下さいました会場内の皆様にとっても大変大きな喜びとなりました。この喜び・誇りを常に胸に抱き、今後も活動を持続して参る決意を更に強く固めました。

更に第五回目のTICADにて大きな議題の一つであり、私達一冊の会・UN Women（国連女性機関）さくらの大きな取り組みの一つでもあります『女性の地位向上』に対しましても、レソト王国も共に男女共同参画社会を目指して行きたいと、とても嬉しいお言葉を賜ることが出来ました。本式典と同時に一冊の会では、最高顧問であり、男女雇用機会均等法の生みの親と称されております赤松良子先生の“時代を視る 2004-2012”“クオータ制の実現を目指す”の千人輪読活動を全国で続けております。

2年後の2015年の一冊の会【黄金の50周年】を迎えるにあたり、男女共に平等でありお互いの能力を最大限に生かした「真の平和な世界」を築き、レソト王国と日本の更なる発展・輝かしい未来の為にも女性の地位向上・世界への進出支援活動に懸命に取り組んで参ります。

レソト王国国王様にお目にかかれる日を一冊の会一同大変心待ちにしております。

2013年6月3日 村岡 清佳

日本とレソト王国の空は確かに繋がっている……。まるで「天空の王国・レソト」を思わせるような青天に恵まれた2013年6月4日、モツォアハエ・トーマス・タバネ首相閣下御一行は東日本大震災の被災地を訪問されました。現地では心身ともに毎日が挑戦の連続。生き抜いてこの世で勝利の幸せを……との思いで復興へ挑み続ける被災者達の姿をご覧になりました。

福島県佐藤雄平知事への表敬訪問に始まり、相馬市の磯部小学校では津波災害で亡くなった12名の児童の慰霊碑に献花の後、プロスパーポローニャ(繁栄の桐)の木を植樹。被災者住居・相馬市井戸端長屋に建てられた雪香灯の視察、そして佐藤憲男相馬副市長を表敬訪問されました。翌日、仙台よりご帰都されるまで、タバネ首相閣下は我が事のように被災地の実情を真剣に受け止められ、現地の方々の声に耳を傾け、自ら被災者に寄り添い、手を握り、慈愛の眼差しで、一人ひとりを温かくお励ましく下さいました。行く先々でレソトの国旗を振る人々に熱烈な歓迎を受けられたのもタバネ首相閣下の市民を想うお優しいお人柄があつてのことと思います。日本レソト王国友好協会・一冊の会がタバネ首相閣下御一行をお迎えする荣誉を賜うことが出来た事を心より誇りに思います。特筆すべきことは視察訪問を無事故・大成功裡に終える事が出来たのは、相馬市役所秘書課の皆様方の真心のご配慮があつたからです。感謝 ー。

この度、タバネ首相閣下がお手植えされたプロスパーポローニャ(繁栄の桐)の木は、櫻が咲いた後に約一カ月ピンクの大きく力強い花を咲かせます。既に同じ樹が100本レソト王国に植樹されておりますので、巡りくる春ともなれば、レソト王国と日本に友好信頼の虹の架け橋となって咲き誇ることでしょう。私ども日本レソト王国友好協会は、日本とレソト王国に真心をたくさん込めた強い絆を紡げるように益々両国の友好に尽くして参ります。

王様のご来日を会員一同、心よりお待ち申し上げます。

2013年6月5日 瀧川紗智子

文責：グローリア部高橋美香子